

# 戦略市場創造プラン(ロードマップ)

健康長寿・エネルギー・次世代インフラ・地域資源の4分野について、2030年時点の達成すべき社会像、指標、ライフスタイルを設定。2020年頃(中間段階)の社会像、2030年までの戦略分野ごとの施策展開の長期工程表を整理。

## テーマ1

国民の「健康寿命」の延伸

## テーマ2

クリーン・経済的なエネルギー需給の実現

## テーマ3

安全・便利で経済的な次世代インフラの構築

## テーマ4

世界を惹きつける地域資源で稼ぐ地域社会の実現

テーマ1

国民の「健康寿命」の延伸

# 効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会

## 中間段階において達成しておくべき社会像（2020年頃）

- 医療機関と民間企業の連携したサービスが保険者を中心に購入され、被保険者の健康増進に貢献する実績が明確になる。
- 健康寿命延伸産業に参入しようとする企業が守るべきルール等が明確になる。
- 公的保険医療に加え、健康寿命延伸産業による健康増進、予防サービスを適切に組み合わせて地域の保健を増進する自治体の実績を上げる。

**【社会像】** 効果的な予防サービスや健康管理の充実により、健やかに生活し、老いることができる社会

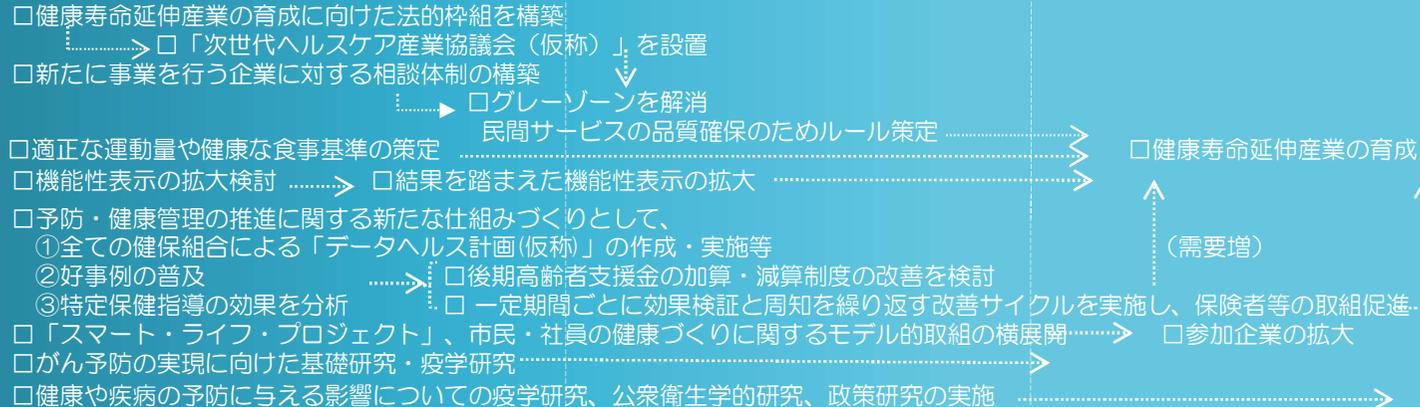
- <主な課題>**
- ✓ 個人、企業、自治体等の健康増進・予防に取り組むメリットの明確化・意識喚起
  - ✓ 医療機関と企業の連携等による保険外サービスの充実

**【指 標】** 健康寿命延伸産業の育成・成長

### あるべき社会で実現するライフスタイル

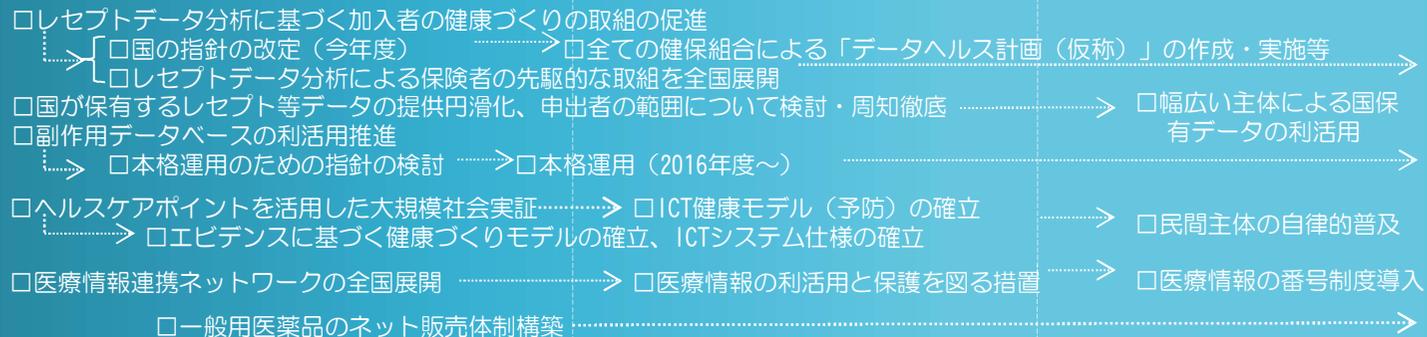
糖尿病等の生活習慣病の発症や、重症化を避ける予防的なサービスが、個々人の仕事やライフスタイルに無理なくとけ込む形で手に入る。医学的に信頼性のある予防方法が確立されており、例えば、食事、運動に関わる予防サービスが医療機関などの信頼性の高い提供者から、個人の職業、年齢に応じた創意工夫のあるサービスとして手に入ることで、誰でも疾病の罹患を避けることが可能。

## <法制・ルール等環境整備による健康寿命延伸産業育成>



○健康寿命延伸産業の育成に向けた枠組み整備等により、健康寿命の延伸、メタボ人口減、健診受診率の向上

## <医療・介護情報の電子化の促進>



**2030年目標**

現在

2017年

2020年

2030年

# 医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会

## 中間段階において達成しておくべき社会像（2020年頃）

- がん、難病・希少疾病、感染症、認知症等の克服に向けた目標に向かい着実な進捗が実感出来、日本における研究開発が世界をリードしている。
- 再生医療等新しい医療技術にも対応した安全制度が構築、運用され、日本の医療技術・サービスの国際展開におけるブランド力をも形成している。
- 新興国を中心に日本の国際保健協力とビジネス事業による国際医療協力のポートフォリオが適切に構築されている。

## 【社会像】医療関連産業の活性化により、必要な世界最先端の医療等が受けられる社会

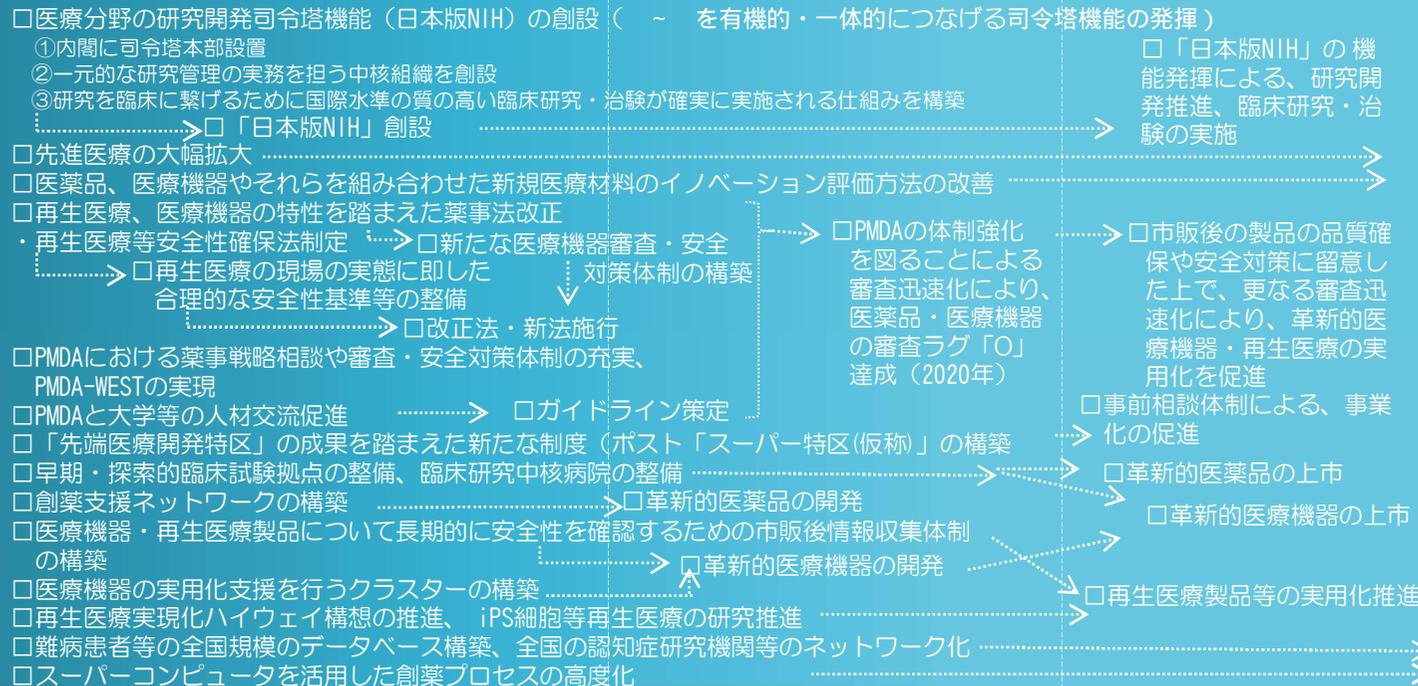
- ＜主な課題＞
- ✓ 政府部門における研究開発の司令塔機能の機能発揮
  - ✓ 民間部門における国際競争力、研究開発力の抜本的な向上
  - ✓ 次世代の技術に適応した安全確保の制度・ルール構築、人材育成の適切な適用等

## 【指標】健康・医療産業の国際競争力の向上

### あるべき社会で実現するライフスタイル

克服困難であった、がん、認知症、自己免疫疾患の治療技術が向上し、がんに関しては「対がん10ヶ年研究戦略」の着実な進捗が図られ、がんの早期発見、早期治療及び再発予防の推進により、安心して社会活動が営める。認知症に関しては早期発見と予防の進捗により患者の増加率がゼロとなる。また、抜本的な治療技術の開発に向けた研究開発の進捗が図られる。

## ＜最先端の医薬品、医療機器、再生医療製品＞



○ 医薬品と医療機器の貿易収支の改善

○ 再生医療分野においては、2030年までに、臨床研究・治験に移行する再生医療製品の件数と、新たな再生医療製品の数を世界トップレベルとする

○ 日本の医療技術・サービスが獲得する海外市場規模5兆円

2030年目標

現在

2017年

2020年

2030年

# 病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

## 中間段階において達成しておくべき社会像（2020年頃）

- 地域で公的部門と民間事業者等が連携するための環境整備（ICTの活用による情報共有、連携のための指針策定）がなされ、在宅でも自由なく医療・介護・生活支援サービスが受けられる。
- 高齢者・障害者の自立支援に大きく貢献する介護支援機器の開発が進み、リースの活用等により、リーズナブルに消費者へ普及されている。

## 【社会像】病気やけがをしても、良質な医療・介護へのアクセスにより、早く社会に復帰できる社会

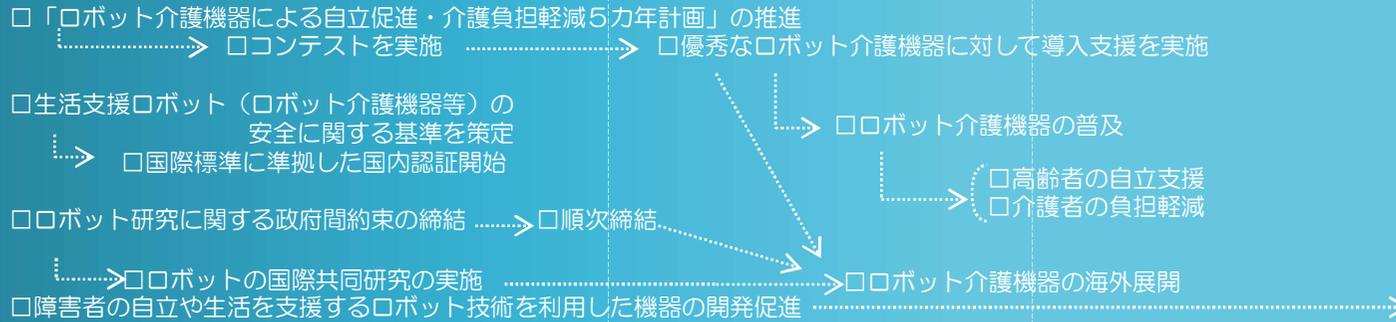
- <主な課題>
- ✓ ICT技術、デジタル技術の適用、医療機関と企業の連携等による保険外サービスの充実
  - ✓ 安価で使いやすい介護機器の普及
  - ✓ 安心して暮らせる住宅・まちづくり

## 【指標】介護機器等の普及、スマートウェルネス住宅・シティの実現

### あるべき社会で実現するライフスタイル

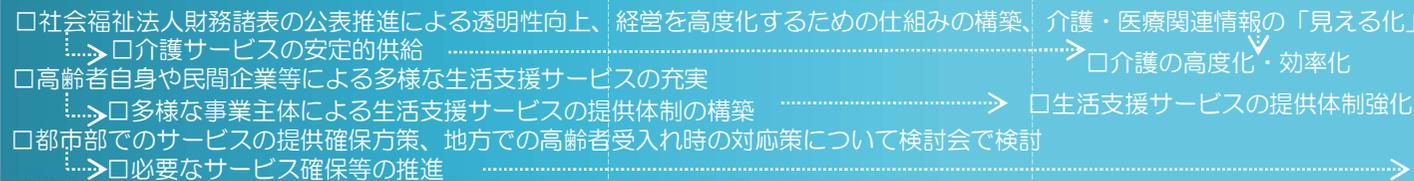
地域社会の特性に応じて、医療介護情報が共有され、合理的な時間内に必要な医療にアクセス可能で、多様な生活支援サービス等が身近に手に入る生活。高齢者をはじめ、多様な世代がまちで交流し、安心して健康に暮らすことが可能。

### <介護ロボットの開発>



○ □ ロボット介護機器の国内市場規模約2,600億円（2030年）

### <介護・生活支援サービス提供（体制の強化）>



○ □ 多様な医療・介護・生活支援サービスの確保

### <高齢者向け住宅・街づくりの推進>



○ □ 次世代の住宅・まちづくり産業の創出・発展  
 ○ □ 中古住宅流通・リフォーム市場の規模の継続的拡大

現在

2017年

2020年

2030年

2030年目標